

連載：山山アートセンターをつくる

第27回 このあたりのしんぶんは季刊になります

ときどき息をするのを忘れそうになることがあります。
私にとって生きることは全然簡単じゃない。生きてよかったと思うにはそれなりの工夫がいります。
生きたい、生きてよかったと思いたい。私がしていることのあれこれほとんどそのためだけにあります。一生懸命生きてるだけです。

このところTBSドラマ「コウノドリ」のネット配信を家事のお供にしています。妊娠出産や生と死とにまつわる悲喜こもごもを描いているのですが、今時の人気俳優がこぞって産婦人科医の役をしており、とにかく多くのご婦人方に見てほしいという気配が感じられるドラマです。こと産後1年に満たない立場の私には毎回涙なしに見られない内容ですが、とくに産後うつを扱った回では、赤ちゃんを残してビルの屋上から飛び降りそうになってしまうお母さんが描かれていて、かなり他人事じゃない気持ちになりました。出生率の高さを誇る福知山市では、明るく楽しく子育てしやすい環境がアピールされがちで、そう、それは嘘じゃない、だけど、出産する人が多いぶん、うつ状態の危険と隣り合わせの人も多いのが現実だと思う。そしてこの話は「産後」に限らず、すべての人間に普遍的に起こりうる話だと思うので、このまちには飛び降りられる高さのビルこそ少ないけど。

先日、知人が主催する国際シンポジウムで『仏教は自死・自殺にどう向き合うか』と題する基調講演を聞く機会がありました。お話しされた佐々木閑教授（花園大学）がおっしゃるには、仏教の考え方において自死は罪ではない、ということ。自死を選んだ人の家族を追いつめるのは何よりも世間からの視線。だが、仏教では「弱さ」や「愚かさ」や「いのちを粗末にする罪」を必ずしも意味しない。ただ、勿体無い。これには目からウロコで、随分救われたような気持ちになったのです。私はケチなので、勿体無いことをなるべく減らしたい。そのうえで、周囲の誰かが自死を選んだとき、その人の選択を責めず恥じずに、生きたことそのもののほうを尊べるのは大きな救いではないでしょうか。

生きることは単純でそして複雑だ、と思います。
山山アートセンターをつくりたい、という動機が強まっていく過程には、何度かの知人の自死の知らせがありました。また、家族の自死と向き合う人たちの存在もありました。そして私自身の生きる気持ちを支えてくれる人たちとのいくつかの出会いが。私の思う山山アートセンターは、生きたい人のための場所、生きてよかったと思えるための場所に他なりません。いろいろあるけどとりあえず、生きてるといいことある。生きる気持ちを否定してしまうとしたら、それがアートであれ地域おこしであれ何であつたとしても、そこにどんな意味があるのだろうか・・・活動の動機がシンプルでも、展開するにつれて誤解されることも見失うこともあって、だから立ち止まり振り返り、整理しながら進みたいと思います。三歩進んで二歩下がってます。

2017年も残りわずか。
初めましての方には何のことやらですが、2年間毎月欠かさず発行してきた「このあたりのしんぶん（これ）」の発行スピードが少しゆっくりになります。もともと、影もかたちもない「山山アートセンター」を紙上にあらわすべくスタートしたのがこのしんぶん。だんだんとしんぶん以外の具体的な活動も充実してきたのに伴い、あくまでも季節ごとに立ち止まり振り返るために発行を続けたいと考えています。毎月異なる表紙の題字。はさみ＆のり＆油性ペン＆輪転機（印刷：川口地域公民館）、人力の折り作業と配布作業。地味で地道な場面も多々ありながら、実にたくさんの人の手がかかってここまでやってきました。
皆々さまのおかげさま。
2018年も引き続き、どうぞよろしくお願い致します。

※次号は2018年3月頃、春号をお届けします。

イシワタマリ

「山山アートセンター」代表、美術家。横浜の新興住宅街・満員電車・絵本の世界で育つ。ニューヨークで「アート」の存在を知り、スペイン北部バスク、ベルリンなどで修行したのち、結婚を機に京都府福知山へ。山奥の三岳エリアに暮らし5年目に突入。未熟ながら二児の母。趣味はもがくことと異文化交流。

あんだちああい・・・京都市内に生まれ育った22歳。祖父母の暮らす福知山市三岳地区にたびたび通う。
ときどき連載④
あんだちああい
ゆ休みに没頭して。こ、とえば「かまら作り」です。しかし!!糸内得のいくかまら完成させたい記憶がない。ので、大人になった今こそ、超巨大かまらを作り上げる...のが今冬の目標です。雪かきもかねて。
ギターを弾いて歌うこと、絵を描くこと、
家族の思い出を撮ること

YAMA YAMA ART CENTER

facebook: 山山アートセンター
yamayama.art@gmail.com 080 6311 8729 (担当: 水田)

2017年12月号

発行: 山山アートセンター/暮らしの中で旅をしよう
編集・レイアウトデザイン: イシワタマリ・球体アイ

京都府地域力再生プロジェクト支援事業

山伏連載
修験道って何だろう?

修験行者は護摩焚きをします。
火を焚いて神さんと仲良くなります。
神さんと仲良くなりたいから日々色々と考えます。



滝町昌寛・・・山伏、獺師、そして絵師。
明智光秀や大江山酒香童子といった地域ゆかり
福知山ワンダーマーケット (毎月第4日曜日10:00~)